

台湾高校生におけるネットいじめとメンタルヘルスに関する 量的研究-台湾大学公衆衛生学院と共同研究の依頼について

医学研究科 博士課程 3年

WANG CHIAWEN

台湾

2017年12月9日～2018年1月5日

計画の概要

【はじめに】

近年、スマートフォン利用の急速な拡大に伴い、インターネット(以下、ネット)利用の若年化が急速に進んでいる。そして、この若年層におけるネット利用の拡大は、同時にソーシャルネットワークサービス(SNS)などの通信手段を用いての「ネットいじめ」を生み、重要な公衆衛生の問題として指摘されている。ネットいじめの問題は、現在全世界の青少年の間で増加しており、米国の調査では、青少年のうち、ネットいじめの被害経験者は26%、ネットいじめの加害経験者は16%と報告され、欧州全体の調査では、過去12ヶ月に、9-16歳の子供の19%がいじめにあり、そのうちの6%はネットいじめであったと報告されている。さらに欧米諸国では、長期間に渡るネットいじめにより自殺した青少年の事例も報告されており、また、ネットいじめは、うつ病、身体症状、暴力行為、自殺未遂と自殺念慮などのネガティブなメンタルヘルスと関連しているとの報告が多い。このように、青少年のネットいじめとメンタルヘルスに関する研究は、これまで主に欧米諸国で多く実施されてきたが、台湾では、青少年におけるスマートフォン利用が拡大しているにもかかわらず、ネットいじめとメンタルヘルスに関する研究は極めて限られており、実態の把握が遅れている。したがって、本研究は、「高校生集団内におけるネットいじめ、及び従来型の学校でのいじめ経験者の割合 (prevalence)」と「これらのいじめと高校生のメンタルヘルスに及ぼした影響(特に、うつ症状、自尊心、自殺念慮)との関連」を明らかにすることを目的として実施する研究である。

【渡航の目的】

本研究「台湾高校生におけるネットいじめとメンタルヘルスに関する量的研究」は、京都大学大学院医学研究科医学専攻の学位研究として実施予定のものであり、今回の渡航の目的は台湾大学公衆衛生学院に共同研究の依頼をするためである。

成果

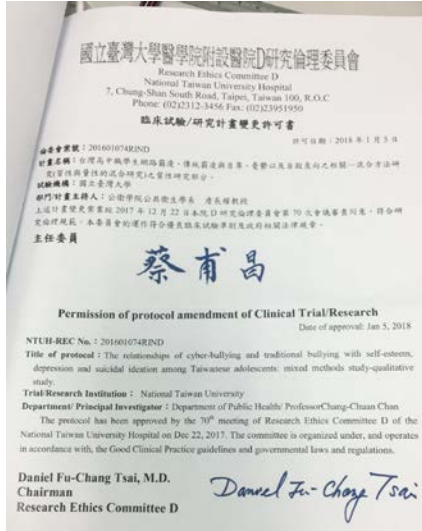
1. 台北市・国立台湾大学・公衆衛生学院訪問し、Chan 院長に研究説明を行い、協力の許可を得た。その際、Chan 院長より、台湾全土の高校生を研究対象とすることは実現可能性が低いとの判断があり、研究対象を、全国の高校生から台北市内の高校生に変更した。沿って、代表性の高いサンプルを得るため、クラスターランダムサンプリングを用いた。手順としては、普通高校と職業高校を含む、台北市内の全高校のリスト（67校）の中から30校をランダムに選択した。
2. 本研究の研究計画書は、国立台湾大学付属病院研究倫理審査委員会に提出し、2018年1月5日、倫理審査委員会から承認を得た。
3. 本研究のテーマは、「いじめ」という学校にとってかなり敏感にならざるを得ないテーマと考えられるため、学校の研究参加割合が低いことが懸念された。そのため、Chan 院長と共に、台北市政府の衛生局と教育局へ本研究の意義を説明に赴き、その結果、台北市政府の協力の下、本研究を実施する運びとなった。
4. 台北市政府教育局の協力の上、台北市内の30高校の教員を集めた研究説明会を開き、全学校から研究協力の許可を得た。
5. 今回の渡航による研究協力依頼の結果、2018年3月から4月にかけて、台北市内の高校生4200人（30高校、120クラス）に、本研究を実施予定である。



研究連携機関－国立台湾大学・公衆衛生学院



国立台湾大学・公衆衛生学院院長 Chan と私



国立台湾大学付属病院
 研究倫理審査委員会の承認書



台北市政府



台北市政府の衛生局と教育局への研究説明